



# 北陸地域の概要（2022年5月調査）

一般財団法人 北陸経済研究所  
地域開発調査部 研究員 吉田聡子

## 景気の現状判断 持ち直しの動きが鮮明になり、現状DI値は引き続き50超え

3か月前と現状を比較する現状判断指数(DI)は前月から4.5ポイント上昇の55.9と2か月連続で50を超えた。「ゴールデンウィークは久しぶりに例年並みの集客があり、その後も有効期限が迫っていた地域共通クーポンの駆け込み利用により、新型コロナ発生前と比較して90%近い集客となっている(高級レストラン)」、「コロナ禍となってから、今が一番客の動きがあり、景気は良いとみているが、新型コロナ発生前の実績まで戻るには、あと少しといった状況である(コンビニ)」と持ち直しの動きが鮮明となった。しかし、「新型コロナによる上海のロックダウンの影響で、メーカーの商品供給が悪くなっている(家電量販店)」、「半導体不足により電子機器類が入手困難で、価格も上昇している。加えて、ロシアのウクライナ軍事侵攻に伴う影響で物価も上昇しており、サービスの展開に支障が出始めている(通信会社)」と海外情勢に端を発する懸念がくすぶっている。

## 景気の先行き判断 各種値上げの影響から今後の消費行動はよりシビアなものに

先行き判断指数(DI)は1.5ポイント下落の48.5となった。「6月からの商品値上げの話をも多くの業種から聞いている。生活必需品にかかる金が増えるため、衣料品や外食、レジャー関連への影響は必至(商店街)」、「食品や生活関連品など生活必需品の値上げの影響が大きく、婦人、紳士アパレル、化粧品といった部門で、購入品をワンランク下げたり我慢したりするなど、価格を意識した動きが出てきている(百貨店)」、「食料品だけではなく、商品を作るための資材も含めて今後の値上げは確実に、売価に反映せざるを得ない。商品によっては節約志向のため、消費者の(価格比較による)買い回りに更に拍車がかかる(スーパー)」と値上げの影響への言及が多い。また、雇用動向では「新型コロナによる影響は落ち着いてきているが、生活必需品等における値上げのニュースが続く一方、賃上げの様子はほとんどみられない(職業安定所)」という指摘があり、消費はシビアにならざるを得ないだろう。

図1 景気の現状指数(DI)の推移[季節調整値]

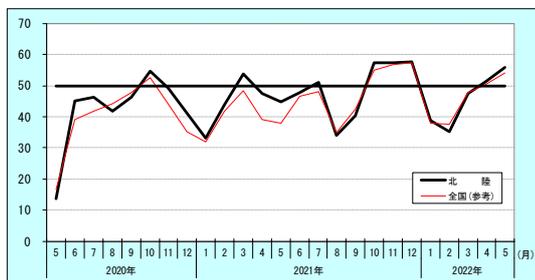
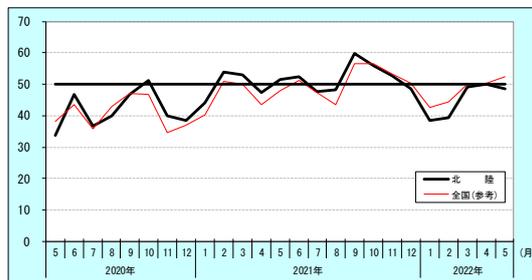


図2 景気の先行き指数(DI)の推移[季節調整値]



### ●5月のアンケート内容

調査期間：2022年5月25～31日  
調査対象：合計100名（うち回答者91名）  
（内訳）  
・家計動向関連  
・企業動向関連  
・雇用関連

### ●景気の判断指数（DI）の算出方法

景気の現状や先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これを各回答区分の構成比(%)に乗じて算出している。（良い=+1、やや良い=+0.75、変わらない=+0.5、やや悪い=+0.25、悪い=0）DIが50の場合には、景気は「横ばい」、50を超えると「改善」、50を下回ると「悪化」を示す。

内閣府「景気ウォッチャー調査」は景気の動きを敏感に観察できる立場の2050人を対象に全国12地域で毎月実施され、北陸地域では当研究所が100名を対象に調査している。本誌の北陸地域の概要は当研究所の責任で取りまとめたものである。なお、調査内容は内閣府のホームページで毎月第6営業日に公表されている。

※ 詳細は2022年6月27日発行の「北陸経済研究2022年7月号」をご覧ください。